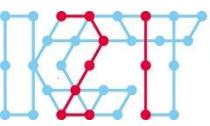


「相互運用標準モデル」の適合性評価等の検討状況について



■ セルフチェックの仕組みを検討

(検討開始済み、12月案、3月まとめ)

- ・セルフチェックの仕組みの検討
 - 論点例：自己評価の実施主体、自己評価が効果的である範囲の特定（対象）、チェック項目、判定基準、自己評価の運用の仕組み、自己評価結果を公にする主体や方法
- ・必要文書（評価実施要領、評価基準に応じたチェックシート等）の作成
- ・セルフチェックの仕組み（案）等について関係事業者へのヒアリング（11月末～1月実施予定）
 - 論点例：自己評価の実施可能性、実施方法、実施項目等
- ・ヒアリング結果の反映

■ 第三者評価の論点について検討

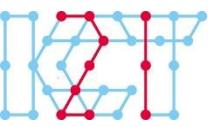
(10月検討開始、12月案、3月まとめ)

- ・第三者評価の仕組みの検討
 - 論点例：第三者評価の実施主体・体制、実施対象、費用分担、評価基準
- ・第三者評価の仕組み（案）等について関係事業者へのヒアリング（11月末～1月実施予定）
 - 論点例：第三者評価の内容、実施可能性等
- ・第三者評価の仕組みの検討のまとめ
 - 論点例：第三者評価を実現するに当たって必要な体制・方法、実現に向けた課題
 - 基本的な考え方、ステークホルダーに想定される影響、評価機関の体制・能力、設置・運用コスト

■ 接続テスト環境のシステム及び運用体制について検討

(10月検討開始、12月案、3月まとめ)

- ・既存の仕組みの分析・整理
 - 例：デジタル庁の実証調査研究の成果、1EdTechコンフォーマンステスト、MEXCBTステージング環境
- ・求められるシステム・運用体制の検討
 - 論点例：必要と考えられる試験項目、設置費用と実現可能性、運用体制とコスト



「適合性評価の仕組みに関する検討」の状況報告

■ セルフチェックの仕組みを検討

(検討開始済み、12月案、3月まとめ)

詳細報告

- ・セルフチェックの仕組みの検討
論点例：自己評価の実施主体、自己評価が効果的である範囲の特定（対象）、チェック項目、判定基準、自己評価の運用の仕組み、自己評価結果を公にする主体や方法
- ・必要文書（評価実施要領、評価基準に応じたチェックシート等）の作成
- ・セルフチェックの仕組み（案）等について関係事業者へのヒアリング（11月末～1月実施予定）
論点例：自己評価の実施可能性、実施方法、実施項目等
- ・ヒアリング結果の反映

■ 第三者評価の論点について検討 (10月検討開始、12月案、3月まとめ)

- ・第三者評価の仕組みの検討
論点例：第三者評価の実施主体・体制、実施対象、費用分担、評価基準
- ・第三者評価の仕組み（案）等について関係事業者へのヒアリング（11月末～1月実施予定）
論点例：第三者評価の内容、実施可能性等
- ・第三者評価の仕組みの検討のまとめ
論点例：第三者評価を実現するに当たって必要な体制・方法、実現に向けた課題
基本的な考え方、ステークホルダーに想定される影響、評価機関の体制・能力、設置・運用コスト

■ 接続テスト環境のシステム及び運用体制について検討 (10月検討開始、12月案、3月まとめ)

- ・既存の仕組みの分析・整理
例：デジタル庁の実証調査研究の成果、1EdTechコンフォーマンステスト、MEXCBTステージング環境
- ・求められるシステム・運用体制の検討
論点例：必要と考えられる試験項目、設置費用と実現可能性、運用体制とコスト

これまでの専門家委員会等での意見を踏まえ、主として以下の案で検討

- ・「学習eポータル」が先行してセルフチェックを実施
- ・公表はデジタル庁の教育DXサービスマップに掲載
- ・来年度実施に向けたご意見を伺いたい

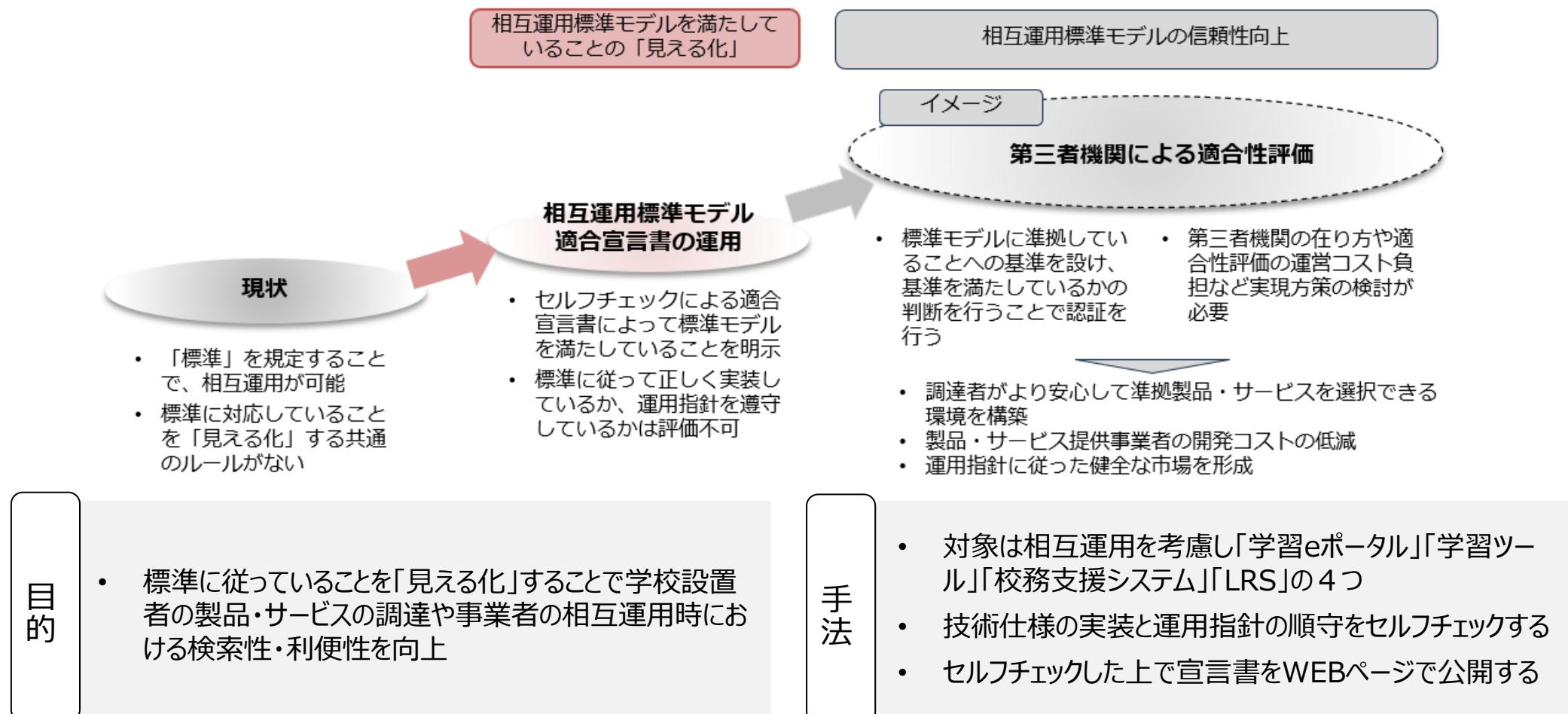
後述

後述

セルフチェックに関する昨年度までの検討

昨年度は適合性評価のファーストステップとして、相互運用標準モデルを満たしていることを各事業者が自らチェック・公表することで「見える化」する、セルフチェックの仕組みを検討した

令和6年度専門会議 セルフチェックの趣旨



セルフチェックに関する課題の整理

セルフチェックの有用性に対してのご意見がある一方で、相互運用に至るまでの課題や相互運用に関しての認知度の低さについても多くの指摘があった。両者のバランスを考慮し、来年度の実施に向け方向性を調整

賛成

専門家委員会での主な賛成意見

- データ利活用に向けて相互運用性を担保していくには、標準に従った実装やルールの遵守は必要
- マーケットに向けて発信することは、事業者の行動の制約のため一定の意義がある

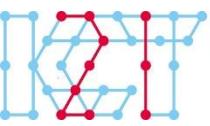
慎重

専門家委員会での主な慎重意見

現状の標準モデルの技術仕様を実装したとしても、即座に相互運用が開始できるわけではなく、接続における課題が存在

加えて、多くの自治体は学習eポータルを導入しているものの、相互運用（相互運用標準モデル）に関する認知度は著しく低い

学習ツールや校務支援システムがセルフチェックによる適合状態を宣言することは優良誤認のリスクが高く、自治体や利用者が自由な選択をする際の弊害になる可能性もある



セルフチェックに関する今年度の方向性（案）

具体的には、相互運用を推進するステップとして、セルフチェックの一部立ち上げを優先して実施する案を検討中

来年度セルフチェックの実施に向けた方向性

ポイント

すでに導入が進んでいる**学習eポータル**が、今後、相互運用のハブとして機能するために「相互運用標準」をきちんと満たしていることは必須条件



すぐに相互運用のための接続を目指すではなく、まずは、**ハブとなる学習eポータルが標準を満たしていることを明示してもらう**

令和6年度案

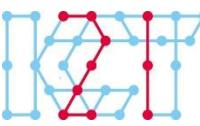
- 目的
- 標準に従っていること「見える化」することで学校設置者の製品・サービスの調達や事業者の相互運用時における検索性・利便性を向上

- 手法
- 対象は相互運用を考慮し、「学習eポータル」「学習ツール」「校務支援システム」「LRS」の4つ
 - 技術仕様の実装と運用指針の順守をセルフチェックする
 - セルフチェックした上で宣言書をWEBページで公開する

来年度実施に向けた令和7年度案

- ハブとなる学習eポータルが適合状態を「見える化」することで相互運用時におけるベースを整える

- 対象は「学習eポータル」からまずは先行実施（将来的な対象拡大を想定）
- 技術仕様の実装と運用指針の順守をセルフチェックする
- セルフチェックした上で宣言書をWEBページで公開する（デジ庁との教育DXサービスマップと連携を検討）



セルフチェックの項目

セルフチェックは技術仕様と運用指針についてチェックを行う。技術仕様については実装している相互運用標準モデルのVer.と機能ベースに標準に従って実装しているかをチェック。他方、運用指針は指針毎にチェックを行うことを想定

セルフチェックの実施～公表

学習eポータル事業者はセルフチェックのフォーマットに従ってチェックを実施。チェックしたフォーマットについてはデジタル庁の教育DXサービスマップに掲載することを検討中

セルフチェックの実施

技術仕様

適合宣言書（学習eポータル）

製品・サービス名 ○○○

対象となる相互運用標準モデルのVer. 5.00

本製品・サービスは相互運用標準モデルに従って実装しています



運用指針

運用指針① ○○○○○○
運用指針①を遵守します



運用指針② ○○○○○○○
運用指針②を遵守します



確認日

企業・団体名 ○○○○
連絡先 担当者 ○○○○

✓ 確認日、企業・団体名、問合せ先として連絡先・担当者を指名記載

- フォーマットに従ってチェックを実施し
確認した日付や担当連絡先を記載

セルフチェックの公表

デジタル庁 教育DXサービスマップ

教育DXサービスマップ（実証ベータ版）

The screenshot shows the 'Education DX Service Map (Beta Version)' interface. It includes sections like '教育支援システム等のサービスを検索' (Search services for education support systems), '教育支援・実証実験 (32)' (Education support - Proof-of-concept experiments (32)), '学習サポート (11)' (Learning support (11)), '授業支援・課題支援 (52)' (Teaching support - Assignment support (52)), '教材 (52)' (Materials (52)), and '情報教育 (34)' (Information education (34)). Each section lists specific services such as '教材配信・学習環境構築' (Material distribution - Learning environment construction), 'AIによる個別化された学習' (AI-based personalized learning), and '情報セキュリティ' (Information security).

調整中

- サービスマップへの掲載は情報の集約・幅広い周知・記載情報の信頼性の向上の観点で有用と考える

- 記載したフォーマットをデジタル庁のサービスマップに掲載（掲載方法は検討中）

教育DXサービスマップ

教育DXサービスマップ（実証ベータ版）

最終更新日：2024年11月28日

本サイトは、学校現場にICT環境の導入を検討している自治体、教育委員会向けのウェブサイトです。学校現場のICT活用を進める教育関係者の方々の用途に応じたそれぞれのカテゴリで、有用なサービスを掲載しています。本サイトは、利用者のフィードバックを経て、改善や追加コンテンツの拡充を順次行っています。各サービスカテゴリをクリックすると、詳細なカタログ情報を表示されます。※ サービスカタログの () 内は、登録されているサービス数です。

校務支援システム等のサービスを検索

校務支援システム（統合型*含む）（21）

- 教務管理（成績管理、学期/年度末の成績・統計・評定処理、通知表の作成・管理、指導要領の作成・変更、時数管理・服務管理）
 - 保健管理（健康観察、健康診断、養成教育業務の支援）
 - 学籍管理（児童生徒の在籍・出欠管理）
- *統合型校務支援システムとは、本カテゴリの機能にグループウェア、コミュニケーションシステム、その他の校務支援機能（の一部または全部）を一括的に実装したもの

校務用グループウェア&コミュニケーション（11）

- 教職員間の情報共有の操作支援（掲示板、スケジュール等）
- 家庭や地域への情報発信の操作支援（保護者連絡、アンケート等）

など

その他校務用クラウドツール（2）

- 入試
- 施設・備品管理
- 微収金管理
- 給食管理（実食数、アレルギー等の確認）

など

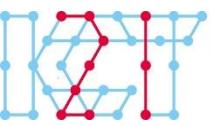
将来的に、各システムがデータでつながり、主体的・対話的で深い学びを実現し、誰ひとり取り残されない教育の実現につなげていく。

本サイトは、学校現場にICT環境の導入を検討している自治体、教育委員会向けのウェブサイトです。学校現場のICT活用を進める教育関係者の方々の用途に応じたそれぞれのカテゴリで、有用なサービスを掲載しています。
 （サイト内説明を一部抜粋）

学習eポータルに関するページ

11/28 公開

法人名	株式会社EDUCOM	株式会社ネットラーニング	株式会社岡崎システムズ	株式会社COMPASS	NTTドコモビジネス株式会社	株式会社内田洋行	コニカミノルタ株式会社																																									
サービス名	スクールライフノート	みらeポータル	R-Station	学習eポータル+AI型教材 「キュビナ」	まなびポケット	L-Gate	tomoLinks																																									
サービス概要	<p>スクールライフノートは、子どもたちが毎日、簡単な操作で学校生活のさまざまなことを記録し、「気づき」を可視化することができるシステムです。</p> <p>みらeポータルは、「子どもたちひとりひとりにとっての未来へのつながりになってほしい」という願いをこめて設計された、ユーザビリティの高い学習eポータルです。先生や学校管理者の画面では、児童・生徒の登録やクラス作成、MEXT-BT（メクビット）を利用した問題作成をシンプルな操作で完結できます。児童・生徒向けの学習者画面は文言や操作性を考慮し、はじめてでも使いやすいデザインになっています。</p> <p>先生方は、子どもたちが記録した、「気持ち」の変化や流れをクラスで確認したり、個人の記録をクローズアップして確認することで、適切なタイミングでの「声掛け」や「支援」ができるようになります。さらに、先生自身の授業の振り返りに利用することで、授業力向上の一助となります。</p>	<p>学習eポータル『R-Station』は、ICTを活用した個別学習・協働学習をサポートし、MEXT-BTやデジタル教科書などシステムレスに連携する教育プラットフォームです。</p> <p>AIが生徒一人ひとりの習熟度に合わせて最適な問題を出題するAI型教材「キュビナ」では、ご導入自治体様向けに学習eポータル機能も提供しております。データの横断的な利活用を通じた個別最適な学びの環境の実現を目指します。</p>	<p>まなびポケットは教職員、児童・生徒が多種多様なコンテンツを簡単に学べる環境を通して、日々に最適された学習の提供を目指す「クラウド型教育プラットフォーム」です。無料機能が充実し、多種多様な学習コンテンツ、先進的なデータ利活用、安心・安全なサービス基盤、教職員に寄り添ったサポートなどの特徴があります。</p>	<p>1人1台・1アカウントを使った日々の学びと運用・管理を支援する、学校向け学習eポータル。</p>	<p>tomoLinksは、ICT技術によって子どもたち一人ひとりの特性を把握し、個別最適な学びの実現をサポートする学校教育向けソリューションです。学習eポータル、生成AI活用機能、AIドリル、授業支援やデジタル連結帳、こころの日記などの機能が1つのアプリに集約されており、簡単・シンプルな操作が少ない点が信頼できています。</p>																																											
サービス紹介サイトURL	https://www.educom.co.jp/service/sln/	https://web.mira-po.com/	https://service.ryobi.co.jp/public_solution/r-station/	https://qubena.com/	https://manabipocket.ed-cl.com/	https://www.info.l-gate.net/	https://tomolinks.konicaminolta.jp/																																									
導入自治体数	12	非公開	非公開	60 (AIドリル220)	1200以上 ※2025年1月時点	約700自治体	20																																									
動作環境（クライアント端末）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>OS</th> <th>Windows 最新版 Chrome OS 最新版 iPadOS 最新版</th> <th>Windows最新、Chrome最新、 iPad最新</th> <th>最新OS (WebアプリのためOS 依存は基本なし)</th> <th>Windows 最新および一世代前 Chrome OS 最新および一世代前 iPadOS 最新および一世代前、 二世代前</th> <th>※推奨環境 Android 14、15 iOS 17、18 iPadOS 17、18 MacOS 14、15 Windows11 ChromeOS</th> <th>最新OS (WebアプリのためOS には依存しません)</th> <th>Windows 10 22H2以上 macOS 12.6以上 Chromebook OS Chrome OS 11以上 iPad OS 15.7以上 iOS 15.6以上 Android Android 13以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブラウザ</td> <td>Microsoft Edge 最新版 Google Chrome 最新版 Safari 最新版</td> <td>Microsoft Edge、Google Chrome、 Safari</td> <td>Edge、Chrome</td> <td>Microsoft Edge 最新版 Google Chrome 最新版 Safari 最新版</td> <td>※推奨環境 Google Chrome 最新版 Safari 最新版 Microsoft Edge 最新版</td> <td>Edge、Chrome、Safari</td> <td>Microsoft Edge (Chromium版) Google Chrome Safari</td> </tr> <tr> <td>ネットワーク</td> <td>安定したインターネット接続環境</td> <td>1Mbpsあたり0.5Mbps以上の帯域</td> <td></td> <td></td> <td>-</td> <td>規定なし</td> <td>0.5Mbps (上り下り)</td> </tr> <tr> <td>セキュリティ</td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td>-</td> <td>指定なし</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>サービス提供事業者のセキュリティ認証</td> <td>ISO27001 (ISMS)、ISO27017 取得</td> <td>Pマーク、ISMS 7</td> <td>ISO/IEC 27001、ISO/IEC 27017</td> <td>プライバシーマークを取得している</td> <td>ISO9001 ISO14001 ISO20000-1 ISO22301 ISO27001/ISO27017/ISO27701 ISO27018 SOC1/2準拠</td> <td>ISO27001 プライバシーマーク</td> <td>ISO/IEC 27001、ISO/IEC 27017</td> </tr> </tbody> </table>								OS	Windows 最新版 Chrome OS 最新版 iPadOS 最新版	Windows最新、Chrome最新、 iPad最新	最新OS (WebアプリのためOS 依存は基本なし)	Windows 最新および一世代前 Chrome OS 最新および一世代前 iPadOS 最新および一世代前、 二世代前	※推奨環境 Android 14、15 iOS 17、18 iPadOS 17、18 MacOS 14、15 Windows11 ChromeOS	最新OS (WebアプリのためOS には依存しません)	Windows 10 22H2以上 macOS 12.6以上 Chromebook OS Chrome OS 11以上 iPad OS 15.7以上 iOS 15.6以上 Android Android 13以上	ブラウザ	Microsoft Edge 最新版 Google Chrome 最新版 Safari 最新版	Microsoft Edge、Google Chrome、 Safari	Edge、Chrome	Microsoft Edge 最新版 Google Chrome 最新版 Safari 最新版	※推奨環境 Google Chrome 最新版 Safari 最新版 Microsoft Edge 最新版	Edge、Chrome、Safari	Microsoft Edge (Chromium版) Google Chrome Safari	ネットワーク	安定したインターネット接続環境	1Mbpsあたり0.5Mbps以上の帯域			-	規定なし	0.5Mbps (上り下り)	セキュリティ	なし	なし	なし	なし	-	指定なし	-	サービス提供事業者のセキュリティ認証	ISO27001 (ISMS)、ISO27017 取得	Pマーク、ISMS 7	ISO/IEC 27001、ISO/IEC 27017	プライバシーマークを取得している	ISO9001 ISO14001 ISO20000-1 ISO22301 ISO27001/ISO27017/ISO27701 ISO27018 SOC1/2準拠	ISO27001 プライバシーマーク	ISO/IEC 27001、ISO/IEC 27017
OS	Windows 最新版 Chrome OS 最新版 iPadOS 最新版	Windows最新、Chrome最新、 iPad最新	最新OS (WebアプリのためOS 依存は基本なし)	Windows 最新および一世代前 Chrome OS 最新および一世代前 iPadOS 最新および一世代前、 二世代前	※推奨環境 Android 14、15 iOS 17、18 iPadOS 17、18 MacOS 14、15 Windows11 ChromeOS	最新OS (WebアプリのためOS には依存しません)	Windows 10 22H2以上 macOS 12.6以上 Chromebook OS Chrome OS 11以上 iPad OS 15.7以上 iOS 15.6以上 Android Android 13以上																																									
ブラウザ	Microsoft Edge 最新版 Google Chrome 最新版 Safari 最新版	Microsoft Edge、Google Chrome、 Safari	Edge、Chrome	Microsoft Edge 最新版 Google Chrome 最新版 Safari 最新版	※推奨環境 Google Chrome 最新版 Safari 最新版 Microsoft Edge 最新版	Edge、Chrome、Safari	Microsoft Edge (Chromium版) Google Chrome Safari																																									
ネットワーク	安定したインターネット接続環境	1Mbpsあたり0.5Mbps以上の帯域			-	規定なし	0.5Mbps (上り下り)																																									
セキュリティ	なし	なし	なし	なし	-	指定なし	-																																									
サービス提供事業者のセキュリティ認証	ISO27001 (ISMS)、ISO27017 取得	Pマーク、ISMS 7	ISO/IEC 27001、ISO/IEC 27017	プライバシーマークを取得している	ISO9001 ISO14001 ISO20000-1 ISO22301 ISO27001/ISO27017/ISO27701 ISO27018 SOC1/2準拠	ISO27001 プライバシーマーク	ISO/IEC 27001、ISO/IEC 27017																																									



セルフチェック案とサービススマップとの対応（調整中）

セルフチェックと教育DXサービススマップの役割を明確にするとともに、掲載の項目や方法については検討中

セルフチェック

- 互運用標準モデルに従った
技術仕様の実装・運用指針の遵守を明示

学習eポータル用 セルフチェックリスト

製品・サービス名	○○○
技術仕様	本製品・サービスは相互運用標準モデルに従って実装しています
運用指針	運用指針① ○○○○○○○ 運用指針①を遵守します 運用指針② ○○○○○○○ 運用指針②を遵守します 確認日 企業・団体名 確認者の氏名

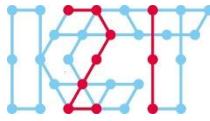
デジタル庁 教育DXサービススマップ（調整中）

- 相互運用標準モデルに従って実装している機能をカタログとして掲載（各社が責任をもって、正しい情報を掲載する）

相互運用標準モデルに基づく基盤機能	実装状況
アカウント管理／ユーザー認証(MUST)	○
MEXCBTとの連携(MUST)	○
各種学習ツールとの連携(MUST)	○
校務支援システムとの連携(MUST)	○
LRSとの連携(MUST)	○
OSや各種学習ツールとのシングルサインオン(RECOMMEND)	—

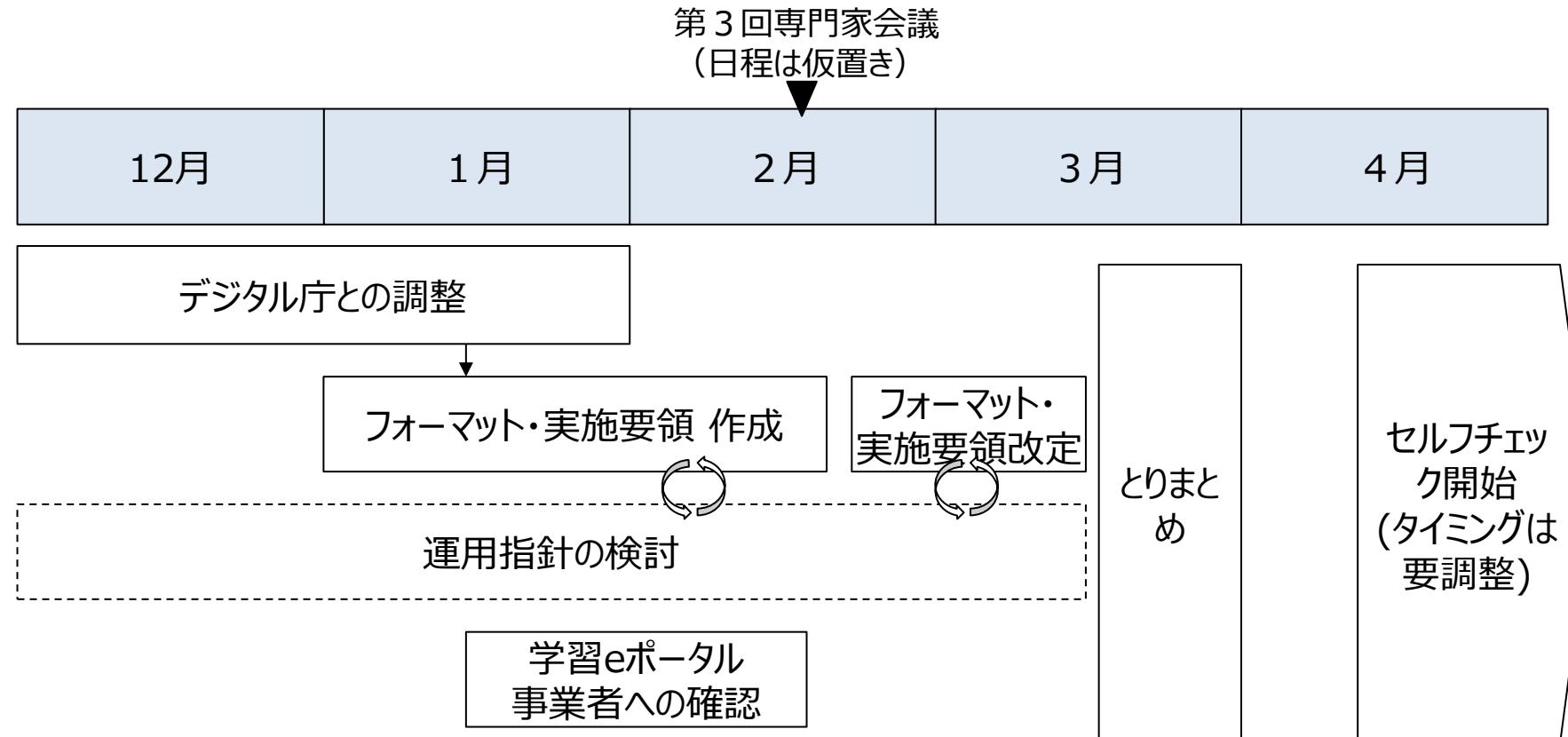
- カタログの内訳として、「相互運用標準モデルに従った実装・準拠」のセルフチェックを掲載

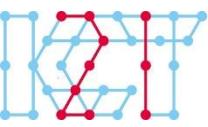
相互運用標準モデルセルフチェック
リンク



今年度のセルフチェックに関する検討

今年度は、「来年度からのセルフチェックの実施に向け」デジタル庁との調整を行うとともに、フォーマットの作成と、運用指針を含めた場合に学習eポータル事業者に実施いただけるかの確認を行う予定





「適合性評価の仕組みに関する検討」の優先順位について

■ セルフチェックの仕組みを検討

(検討開始済み、12月案、3月まとめ)

- ・セルフチェックの仕組みの検討
論点例：自己評価の実施主体、自己評価が効果的である範囲の特定（対象）、チェック項目、判定基準、自己評価の運用の仕組み、自己評価結果を公にする主体や方法
- ・必要文書（評価実施要領、評価基準に応じたチェックシート等）の作成
- ・セルフチェックの仕組み（案）等について関係事業者へのヒアリング（11月末～1月実施予定）
論点例：自己評価の実施可能性、実施方法、実施項目等
- ・ヒアリング結果の反映

■ 第三者評価の論点について検討

(10月検討開始、12月案、3月まとめ)

- ・第三者評価の仕組みの検討
論点例：第三者評価の実施主体・体制、実施対象、費用分担、評価基準
- ・第三者評価の仕組み（案）等について関係事業者へのヒアリング（11月末～1月実施予定）
論点例：第三者評価の内容、実施可能性等
- ・第三者評価の仕組みの検討のまとめ
論点例：第三者評価を実現するに当たって必要な体制・方法、実現に向けた課題
基本的な考え方、ステークホルダーに想定される影響、評価機関の体制・能力、設置・運用コスト

■ 接続テスト環境のシステム及び運用体制について検討

(10月検討開始、12月案、3月まとめ)

- ・既存の仕組みの分析・整理
例：デジタル庁の実証調査研究の成果、1EdTechコンフォーマンステスト、MEXCBTステージング環境
- ・求められるシステム・運用体制の検討
論点例：必要と考えられる試験項目、設置費用と実現可能性、運用体制とコスト

ヒアリング結果等を踏まえ、第三者評価と接続テスト環境については、接続テストを優先的に検討すべきではないか。ご意見を伺いたい

- ・まずは接続テストを優先して検討
- ・接続テストの結果の内容を正しく伝える仕組みとして、今後実際の運用に即し検討

- ・標準に従った接続を担保するための接続テスト環境を優先度を上げて検討